

## 附録

### ISO 29991:2014 に関する補足説明

ISO/TC 232 国内審議委員会 [事務局：一般社団法人 人材育成と教育サービス協議会] は、本国際規格を適切に活用して頂くために、その特性や他規格との関係性について以下に補足する。本国際規格を活用される際は、以下のことに十分留意して頂きたい。

#### 1. 語学学習サービスに関するサービス規格

ISO/TC 232（公式教育外の学習サービス）は、大手の語学学習サービス事業者だけでなく、中小規模の事業者や個人の提供する語学学習サービスを含む市場全体の透明性や質向上等を目ざし、語学学習サービスに関する最低限の要求事項を定めたサービス規格として本国際規格を開発した。そのため、本国際規格（サービス規格）の要求事項は、語学学習サービス事業者が語学学習サービスを提供するプロセス自体に関する要求事項（プロセス規格）ではなく、語学学習サービスが最低限満たすべき要素によって構成されている。

#### 2. ISO 29990:2010 との関係

2007年にISO 29990:2010（非公式教育・訓練における学習サービス – サービス事業者向け基本的要求事項）（以下、「ISO 29990」という。）の開発が始まった当初、ISO/TC 232において語学学習サービスに特化した規格を開発する計画はなく、ISO 29990の発行が目前となった2009年に中国が語学学習サービスを対象とした規格（本国際規格）の開発を突如提案した。そのため本国際規格の開発過程において、ISO 29990との関係性については、何度も国際会議にて議論された。そして度重なる議論の結果、ISO/TC 232は、本国際規格がISO 29990から完全に独立した単独の規格であり、ISO 29990を本国際規格の引用文書（normative reference）として記載しないことを最終的に決定した。

ISO/IEC 専門業務用指針 第2部（第6版、2011年発行）によれば、引用文書とは、「文書（この場合ISO 29991）の適用において規範的に参照され、不可欠のものである」とある。本国際規格において、ISO 29990が引用文書として記載されていないということは、本国際規格を適用する際に、ISO 29990の要求事項（すべて又は一部）を規範的に参照し、それらの要求事項に依存したPDCA（Plan-Do-Check-Act）サイクル等のフレームワークを構築する必要がないことを意味している。本国際規格の適用については、他の規格に依存することなく、本国際規格のみで完結することが可能である。

以上